

午後1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 定刻の時間となりましたので、ただいまより平成27年10月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、5項目について事業発表をいたします。質問につきましては、事業発表についてからお願いしたいと思います。事業発表に係る質疑応答終了後、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進みたいと思っております。

なお、ご質問の際は、お手数ですが、ご自席のマイクのスイッチを入れていただき、ご質問の後は切っていただきますようお願いいたします。

終了は14時30分を予定しております。ご協力お願い申し上げます。

それでは、市長、よろしく願いいたします。

【市長】 皆さん、こんにちは。いつもお世話になっております。

やっと9月議会が終わりまして、10月になりました。10月はいろんな行事が盛りだくさんでございますので、どうぞよろしく願いいたします。

また、やっと田んぼが終わったかなという時期になりまして、雨風が降っておりますので、ちょっと今日は気にしておりますが、記者会見させていただきますので、よろしく願います。

【秘書広報課長補佐】 それでは、事業発表をよろしく願いいたします。

【市長】 では、お手元に資料もあるかと思いますが、1番目の敦賀駅前広場の竣工式及び供用開始についてでございます。

平成18年10月に策定されました駅周辺整備構想に基づく整備としまして、平成25年10月より工事を進めておりました駅前広場が今月5日に供用開始となります。そのため、前日の4日には竣工式及び指定管理者主催のイベントを駅前広場にて実施いたします。今回の整備により新たに設けられました市民交通ゾーンにより、通勤や通学に伴う送迎等による朝夕の混雑につきましても解消され、快適に利用できる駅前広場になるものと考えております。

続きまして、2番目でございますが、敦賀赤レンガ倉庫リニューアルオープンに伴う内覧会及びオープニングセレモニーの開催についてでございます。

赤レンガ倉庫ですが、いよいよ今月14日にリニューアルオープンいたします。これに伴う内覧会の開催及びオープニングセレモニーの開催についてお知らせします。

内覧会につきましては、10月9日金曜日の13時30分から15時までを予定しております。私も先月28日には全てのアトラクションを体験してまいりました。時間を忘れていつまでもいることができるくらい楽しいポイントがたくさんある魅力的なジオラマ館ができたと感じております。レストラン館、オープンガーデンもごらんいただけますので、内覧会のご参加及び報道等によるPRへのご協力をよろしくお願い申し上げます。

続きまして、オープニングセレモニーについて申し上げます。10月14日水曜日の9時半から10時10分までセレモニーを行います。セレモニー終了後、開館準備が整い次第、10時30分をめぐりに開館する予定であります。

具体的な式典の内容について、特徴的な部分を申し上げます。

赤レンガ倉庫を初めとする敦賀市の鉄道に関するPR活動を行ってもらうため、敦賀市鉄道応援隊として3人の有名人を任命いたします。この3名のプロフィールにつきましては、次のページに記載してございますのでご確認ください。この3名につきましては、敦賀赤レンガ倉庫をPRするため、指定管理者による広報計画の一環として、敦賀赤レンガ倉庫の施設長から敦賀赤レンガ倉庫公認応援大使として任命を受けており、ニコニコチャンネルなどを活用したPR活動やご自身のツイッターなどを活用したPRを行っていただいております。オープニングの14日には敦賀市へお越しいただくことになっておりますし、今後も引き続き本市のPR活動をぜひとも行っていただきたいという思いで任命させていただくこととなります。オープニングイベントとしまして、14時30分以降、資料に記載のとおりイベントを行ってまいります。イベントにつきましては、指定管理者を中心に楽しんでいただけるようなものと考えていると聞いておりますので、新しい情報が出ましたら随時、赤レンガ倉庫ホームページにてお知らせしていくと聞いておりま

す。ぜひご来場いただきますようお願いいたします。

3番目の敦賀港駅ランプ小屋公開開始についてであります。

明治15年11月竣工で、長浜市の旧長浜駅舎と同じく国内最古級の鉄道建築物の一つであります。赤レンガ倉庫のオープンに合わせまして、平成26年から修復、復元工事を行っていましたが敦賀港駅ランプ小屋を同時に公開いたします。公開は、年末年始を除く年中無休で、午前9時から午後5時までは見学無料となります。特にオープンの10月14日には午後1時より学芸員による説明会を開催いたします。修復工事で判明したことやランプ小屋の特色などについて解説いたしますので、市内外の皆様のご参加をよろしくお願いいたします。

このランプ小屋が金ヶ崎周辺における新たな観光拠点となり、また教育の面からも活用していきたいと考えております。これに伴いまして、10月9日午後3時30分より報道向けの説明会も開催いたします。よろしく申し上げます。

4番目の第36回敦賀マラソン大会の開催についてであります。

今大会は、第36回目、そして赤レンガ倉庫110周年を記念して、市内外約3900人の参加をお迎えし盛大に開催いたします。1海里(1.85キロ)、3キロ、5キロ、10キロ、全ての種目が敦賀の中心市街地を走るコースで、市民の皆さんの声援を背に楽しく走っていただける大会です。福井国体マスコットキャラクターはぴりゅう君の応援や、昆布汁の振る舞い、また越前そばなど、さまざまな企画も用意してございますので、ぜひとも応援に来てください。

それから5番目ですけれども、つるが観光物産フェア2015の開催についてでございます。

敦賀の秋を代表するイベントであるつるが観光物産フェアが10月24日土曜日、25日日曜日につるが観光物産フェア開催実行委員会主催のもと開催されます。ことしも敦賀市内を初め、姉妹都市盟約50周年である水戸市や友好都市である各務原市を初め、敦賀市にゆかりのある全国の都市から約60の団体が集まり、特産品の販売や観光PRを行います。

ことしは、赤レンガ倉庫にちなんだ企画や物販が行われるほか、金ヶ崎周辺を回遊するイベントも企画されると聞いております。イベントを通して多くの方に敦賀へ訪れていただき、本市の観光及び産業の活性化を図るとともに、出店される方々の新たな交流のきっかけや友好のきずなを深めていただく機会となることを期待しております。

発表項目は以上5項目でございます。よろしく申し上げます。

【秘書広報課長補佐】 ありがとうございます。

それでは、ただいま発表いたしました5つの項目について質問を受けたいと思います。

最初に、幹事社さんからお願いいたします。

【記者】 ランプ小屋なんですけれども、修復工事ということですが、費用はどれぐらいかかっているのでしょうか。

【教育委員会事務局長】 修復工事でございますけれども、26年、27年でおおよそ1940万円でございます。

以上です。

【記者】 このランプ小屋は、そもそもどういう用途で使われていた施設。

【教育委員会事務局長】 その当時、明治のときに、鉄道が走るときの鉄道のところにランプとか印、そういったものをカンテラみたいなものに油を入れて、それで客車とか貨物車というそういった部分の印をランプであらわしていたという部分で、そういったものの油とかカンテラを管理していたというか、そういったものを置いていた倉庫になっております。

以上です。

【記者】 ランプ小屋に関連して、国内最古の鉄道建築物の一つとなっているんですけれども、文化財指定の状況などを教えていただきたいんですけれども。

【文化振興課】 文化財指定ですけれども、物自体を修復する際にも、なるべく古い価値を損なわないようにということで、昨年度、今年度ということで修理しております。そして現在、これで整備を終わらしまして、今後まずは市指定文化財のほうになればどうかということ審議会の先生方といろいろ話し合っていきたいなと思っております。

【記者】 敦賀駅前広場に関してですけれども、改めて4日に竣工式、5日にオープンということで、市長として、できるということの思いを期待も込めて一言いただきたいんですけれども。

【市長】 駅前広場、やっと思えるという感じでございます。私も見てきましたけれども、オル

パークと一体感のある設計になっておりますので、交流の場として、また広場も広がって、イベントもできるようになりましたから、そういうことを有効に使っていただいて、にぎわいの創出、また使いやすい駅になればというふうに思っております。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社伺います。発表項目につきまして質問ありましたら挙手をお願いいたします。

【記者】 ランプ小屋のほうに話戻るんですけども、工事費1,940万円ということで、主にどういったところを修復しているのでしょうか。

【教育委員会事務局長】 大きなものといいますと、やはり当時、屋根が瓦葺きということで、スレートから瓦葺きに変えたというのが非常に大きいものになります。あと、展示製作ということで、中の展示品の製作、そういったものとか、あと管理する電気設備、管理設備、そういったものが重立ったものになります。

以上です。

【記者】 中の展示品ですけども、これは例えば何と云えばいいですか。

【教育委員会事務局長】 中の展示ですけども、当時のランプを模した模型をつくってございます。そういったものが置いてあるということと、あと当時、油を保管していたという一斗缶みたいな、その当時のそういったものの模型とか、そういったものを置いてございます。あと、その中に行けば全てがわかるような解説とか、そういった部分についても全て設置するという形になってございます。

以上です。

【記者】 駅前広場に戻るんですが、市長、先ほどにぎわいの創出ができればいいとおっしゃっていましたが、広場、新しくなっただけではにぎわいができるとは思えないんですが、具体的にどういことができてにぎわいがつくると市長はお考えでしょうか。

【市長】 駅前広場につきましては、指定管理者のほうにお任せする形になります。ですから指定管理者のほうに申し込んでいただいて利用するという形がとれるということがありますし、広場については、広場という指定をしていますので、一々通行規制をとったりとかそういうことがないような状況になったというふうに聞いていますので、気楽に使えるような状態になったと思っていますので、あとは市民の皆さん、またほかの方たちの意欲、アイデア待ちという形になると思います。

【記者】 何か市長として、市民にこういうイベントに使ってほしいとかいう思いはありますか。

【市長】 看護大学もありますので、駅前のほうも大学ありますから、若い人たちがそこでにぎやかにしてくださると楽しいなと思います。また、夜は見てないんですが、夜のライトアップもきれいだと聞いていますので、そういうところも集いの場になればなというふうに思っています。

【記者】 駅前広場が新しくなって、いよいよ赤レンガ倉庫もオープンということで、これから観光客の呼び込みというところに移ってくるのかなと思うんですが、それに当たって、何かご所感であったり、ご期待などありましたら教えてください。

【市長】 駅前広場が10月5日から利用できるようになりますし、続けて10月14日に赤レンガ倉庫という形になりますので、10月4日にやりますイベントの中でも赤レンガ倉庫のご紹介もしていきたいと思っておりますし、誘導していければという取り組みを幾つかやればなと思っています。

赤レンガ倉庫については、今度、杉原千畝の映画がありますので、近くにありますムゼウムというのも連動していくと思いますので、そういう相乗効果を狙っていけたらなということで思っております。

10月18日が敦賀マラソンなんですけれども、14日のオープンの後、すぐマラソンなので、そういうところでもご案内できたらなということを思います。

【記者】 細かいところの確認で、先ほど文化財の関係で、現在のランプ小屋は特段何の指定も受けておられず、今後、市指定の文化財を目指すということでもよろしいのでしょうか。

【文化振興課】 そのとおりでございます。

【記者】 もう1点、さらに細かいんですが、鉄道応援隊のほうへ移りますが、任命される3名の方々、お名前、読み方、フルネームで教えていただけますか。

【企画政策部長】 1名が野月貴弘（のづきたかひろ）様、2人目が南田裕介（みなみだゆうす

け)様、3人目が久野知美(くのとみ)様。以上でございます。

【記者】 ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。

それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答へと行きたいと思います。これも幹事社さんから、ありましたらお願いいたします。

【記者】 きのうの規制委員会の会合なんですけれども、もんじゅに対してかなり厳しい意見が出たというか、そもそも原発を運営していく管理する資質があるのかどうかみたいなかなか厳しい意見も出ましたが、そういったことについてのご所感をお願いいたします。

【市長】 重要度分類という安全上極めて基本的な部分で誤りがあり、その事案について保安検査で内容を説明できずに、報告徴収命令が出されたということは、異例であり、極めて残念に思っております。原子力規制委員会から力量や資質を見なければならぬというような意見も出されておりますので、原子力機構は、みずからの置かれている状況を真摯に受けとめて、報告徴収に対しても確実に対応していただきたいというふうに思っております。

【記者】 ちょっと変わるんですが、前回の会見とかで、廃炉が決まった自治体に対しての支援について、話をして状況を確認していきたいみたいなことをおっしゃっておられましたが、その後の状況どのように、わかったこととか何かありますでしょうか。

【市長】 前回の記者会見で。

【記者】 そうです。記者会見で、ご自身で、いわゆる国のほうに対して、どういった実際支援が得られるとか、そういった状況というか、どういった支援になるとか、具体的なことを確認して話をしていきたいというふうにおっしゃっておられたかと思うのですが、その後、何かありましたら。

【市長】 9月1日に経済産業省に行きまして、方向性の説明を受けてまいりました。細かい具体的な制度設計については今後検討していくということでございました。全原協では、これまでの解体、撤去までの交付期間の延長を要望してきておりますし、廃炉自体への一定の支援である今回の交付金制度の創設というのがありますけれども、ある程度類推するものであると認識しておりますけれども、三法交付金のように自由度の高い交付金制度になるように今後とも国に強く求めていきたいというふうに思っております。

【記者】 敦賀2号機に関して、原電さんが秋にも申請するという話が出ていると思うんですが、立地自治体として、また全原協の会長として、この期間中に何かアクションを起こされることはありますか。

【市長】 今の時点では具体的な申請時期というのは聞いておりませんので、前回の繰り返しになりますけれども、事業者の準備ができれば、その報告があると思いますので、それからアクションを起こしていきたいと思っています。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社、質問がありましたら挙手をお願いいたします。

【記者】 先ほども質問あったもんじゅの件なんですけど、きのうの規制委では、もんじゅが相次ぐ保守管理不備が出ているのは、一般社会だったら契約解除、契約不履行だという指摘もあって、市長も民間におられて、今のもんじゅ、機構の体制を見て、率直にどう思われますか。

【市長】 市長としてどう思うかというのは難しいことなんですけれども、保安検査のたびに違反事案が確認されておりますし、極めて深刻な状況にあることは十分認識しているつもりであります。

原子力機構においても、根本的な解決に至っていない状況をきちんと直視して、いま一度なすべきことはしっかりと確認していただき、原子力規制庁からの指摘に対しては、誠実に、確実に対応していただきたいというふうに考えております。

【記者】 機構が規制庁に対して確実に報告できていない事実もあるんですが、国民、市民の税金でもんじゅは動いているわけじゃないですか。だから国民、市民へずっと裏切り続けているわけですよね、機構、もんじゅは。そのことに対して、何か敦賀市長としての思いはありますか。

【市長】 もんじゅにつきましては、国策でやっている部分というのがありますので、その判断についてはなかなか私の立場からは言いにくいかなと思っています。

【記者】 市として、何か機構に今後強く要請、要望するお考えはありますか。

【市長】 今回のことを深刻に受けとめておりますので、今日、午前中だったらよかったんです

けれども、来ていただくような、一回呼ぼうとしております。

【記者】 呼ぶというのは、どなたをいつ呼ばれるんですか。

【市長】 一回、機構からきちんとした話を説明するように求めようということで、しております。

【記者】 どのクラスの人を呼ばれる予定ですか。呼んで、市長が対面されるということでしょうか。

【市長】 どの人が来るかというのは、今わかりません。私がお会いする予定です。

【記者】 わかりました。ありがとうございます。

【記者】 機構に来ていただくというのは、今日、正式にお願いという申請されたということですか、機構のほうに。

【市長】 そうです。今日です。

【記者】 もんじゅの話の続きなんですが、今回の重要度分類に関しても、ちょっと前のディーゼルの部品落下にしても、安全上問題ないと機構は説明しているんですが、地元としては、やはりそういう説明だけでは納得いかない部分もあるんじゃないかなと思うんですが、率直にそのあたりを聞かせていただけませんか。

【市長】 重要度分類というのは、基本的な部分だろうというふうに思っています。ですからそれが違っていたりわからないというのは、ちょっとおかしいんだろうなということをおもっていますので、その辺きちんと報告を受けたいというふうに思っております。

それから、ディーゼル発電機のシリンダーヘッドの落下ということがありましたけれども、さっき記者がおっしゃったように。私も民間で品質管理をやっていたので、すごく嫌いな部分です、個人的には。そういうミスがあるというのは嫌いなので、もうちょっときちんとしていたきたいということで強く申し入れた経緯がございます。

【記者】 機構のほうから出向かれたときには、聞き取りと同時に、何らか市のほうからやはり申請というか、何かおっしゃることがあるのでしょうか。

【市長】 何か言うと思うんですけども、多分きつく何か言うと思いますが、何を言うかは、来て、報告を受けないとわからないので。

【記者】 いつ頃の話ですか。

【市長】 今日中に話を聞こうと思っています。

済みません。今日中にできるかどうかかわからないそうです。そういう希望を持っております。

【記者】 新幹線の関連でお尋ねしたいんですけども、ひょっとしたら今まで会見とかで出ていたかもしれないんですけども、敦賀以西ルートの問題がああだこうだという議論がいろいろ出ていますけれども、市長は、敦賀以西のルートというのはどのルートが望ましくて、それはなぜかというのを教えていただけないでしょうか。

【市長】 若狭を通過して小浜を通過して大阪に至るとというのが閣議決定だと聞いていますし、福井県全体としてそれを応援していくものだということを思っています。ただ、第4のルートが出てきましたので、第4のルートというのはすごく魅力的だなというふうに感じています。

米原のほうに行くルートというのも話が出ていますけれども、どうも新聞とかを読む限りでは料金が高くなったり、また米原は3分おきに新幹線が入っていますので、相互乗り入れができなかったりということをお聞きしますので、やはり若狭ルートが一番いいというふうに考えています。

【記者】 若狭の場合だと、恐らく建設費が高かったりとか、そもそも沿線の人口がそんなに多くなかったりとかというのはあると思うんですけども、それでもやっぱり若狭もしくは第4のルートが望ましいということになりますか。

【市長】 そうですね。建設費の話になると国土軸の話になってくると思うんですけども、太平洋側に国土軸があって、日本海にももう一つ、地震があったりいろんなことがあったときのために、それを補助するような軸が要るということを思いますと、やはり若狭回りのほうがいいのかなと。建設費のことと、国土軸の話かなと思います。

【記者】 もう1点で、さすがに市長、細かい数字まで持ち合わせておられないかもしれないですけども、北陸新幹線、金沢まで3月に開業して半年余り過ぎましたけれども、敦賀もしくは嶺南のほうにその効果ってどの程度出ていると思われますか。個人的には、肌感覚で感じるのは、

金沢にたくさん来るので、嶺北のほうは、おこぼれという言い方悪いですけども、そのついでに少しプラス影響が出ているけれども、嶺南にはもう一つ余り感じられないなと個人的には思っているんですけども、市長はどういうふうに感じておられますか。

【市長】 おっしゃるとおり数字は持ち合わせておりませんが、こぼれ聞く話であれば、金沢からこちらのほうに回ってきている人たちがいて、ホテルとかもいっぱいだということ聞きますので、かなり経済的には効果があって、人が回ってきているんじゃないかなということを感じます。

今日も朝、駅前で広場の完成を見ておったんですけども、そういうときでも観光客みたいな方が歩いて写真を撮っていったりしますので、こちらまで足を延ばす方もいらっしゃるのではないかなというふうに考えています。

【記者】 新幹線の質問に関連してなんですけれども、第4のルートというのは、若狭回りで京都に入り大阪へつながるといっておっしゃっているわけですよね。それが魅力的だというのは、従来の若狭ルートに比べて魅力的というふうにおっしゃったんだと思うんですが、具体的にどういったところがそう感じさせるのでしょうか。

【市長】 私が余り先走ってしゃべるとまずいかもしれませんが、私らは京都につながるというのはすごく魅力的だなと。観光の面でも、敦賀の港を利用していただいた方とか、東京から敦賀に来ていただいた方とかいうときに、京都を回って行っていただければ魅力的だと思いますので、そういう観光ルートの面で広がりができるかなというふうに思います。

【記者】 たしか9月の中旬に、県議会のほうに嶺南6市町の首長さんらで要望に行ったときに、意見書も可決されていますよね。その時点では、京都ルートというのは特段話にはなかったんですかね。ちょっと記憶、曖昧なんですけれども。

【市長】 京都ルートについては、なかったと思います。

【記者】 そうしますと、今回そういうルートをJRのほうで内部ながら検討しているということになると、そちらのほうを要望したいとか、そういう流れになるんですか。

【市長】 それは福井県もしくは嶺南市町で共同して意思決定していくことになりますので、今の時点では、どうなりますということはないと思います。また、特に小浜市さんとかが関連してきますので、敦賀市が余り出しゃばって言うことではないのかなと思っています。ですから、魅力的というところでとめさせていただければなと思います。

【記者】 もんじゅの関連で1点なんですけれども、今日たまたまといいますか、原子力機構が発足してからちょうど10周年目の日に当たりまして、もんじゅといいますか、原子力機構全体として組織改革が進んでいるとしていて、その割にはいろいろと厳しい指摘が原子力規制委員会などから出ているんですけども、組織全体として見たときに、市長、今日は10年の節目ということもありまして、どのように所感としては持っていますか。

【市長】 今日10年目の節目だということは知らなかったんですけども。原子力機構さん、いろんなことがありますけれども、真に安全を最優先とする組織として信頼を得るとともに、未来の研究開発が一日も早く目的を達成されるような方向に進んでいくことを望んでおりますし、課題がたくさんありますので、引き続き全力で、安全、安心も含めて取り組んでいきたいというふうに思っています。

【記者】 話題が一つ変わるんですけども、1個だけ。

杉原千畝さんの関係で、先日、岐阜県の八百津町のほうで世界記憶遺産に向けてステップが進んだんですけども、敦賀市としてもユダヤ人を受け入れた土地であるということで、ゆかりが深いと思うんです。今後、本格的に世界記憶遺産の登録に向けて、何か敦賀市としてもかかわっていくであったりとか、そのような今のところ検討していらっしゃるようなところはありますか。

【市長】 八百津町さん、世界遺産登録、国内選考受かったということなので、ぜひとも登録できるように応援していきたいとは思っております。ただ敦賀市の場合、ただいまの状態を考えますと、文字に書いた遺産というのが必要なので、私ども、時計とかはあるんですけども文字に書いた現物が今はありません。それを何らかの手段で手に入れていくような方法を持っていて、八百津町さんに続くようなことができればなということと思っています。

ただ、そこが目的というわけではなくて、やはり敦賀に優しい日本人がいたんだよということ何か発信できないかなということも思っています、そのためにいろんな取り組みができた

らなということを思っています。

ビザとか当時の写真とか文字に書いたものとかが手に入れることができれば、世界遺産登録はおまけとしてやっていきたいと思っています。

【記者】 わかりました。ありがとうございます。

【記者】 今の文字に書いた現物をどうにか手に入れるというのは、コレクターみたいな人から市が買い取るとかいう話なんですか。

【市長】 八百津町さんというのは、杉原千畝のサバイバーの方たちのご縁があるからというふうにして寄附をいただいたとかそういうのを持っていらっしゃると思っています。ですから敦賀に上陸して、サバイバーの方は敦賀という名前を大事にしているということをお聞きしますので、ご本人か、もしくは家族の方が敦賀に置いておこうかなということをどなたか思ってくださらないかなということでアプローチしていきたい。ですからお金をばらまいて集めようという気は余りございませんけれども、記念として敦賀に置いていただけないかなというふうに動いていきたいと思います。

【記者】 それは具体的に何かそういう関係者に呼びかけるというのがもうスタートしているんですか。スタートするんですか。

【市長】 リトアニアとかイスラエルとか大使館にも回ったりもしましたし、ここにいらっしゃる皆さんにもお願いしたいんですけども、そういう方とか、発信していただきまして、ぜひ敦賀のムゼウムに置こうかなという方たちを広げていきたいと思っています。

【記者】 8月末ぐらいにグラウンドゴルフ協会などから要望書が出ていたと思うんですけども、1カ月以上たって、現状どんな感じか伺いたいんですけども。

【教育委員会事務局長】 要望書をいただいて、グラウンドゴルフ協会の方と担当課とそういった部分、協議をしているところでございます。

【記者】 継続利用ができる方向に向けてという意味合いでいいんですか。

【教育委員会事務局長】 当然、含めてということです。いろんな部分で要望の内容を見て、今ちょうど協議をしているというところでございます。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、これもちまして10月市長定例記者会見を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

午後2時10分 終了